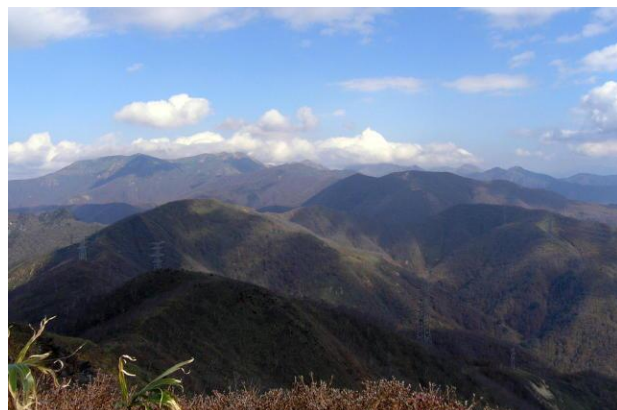
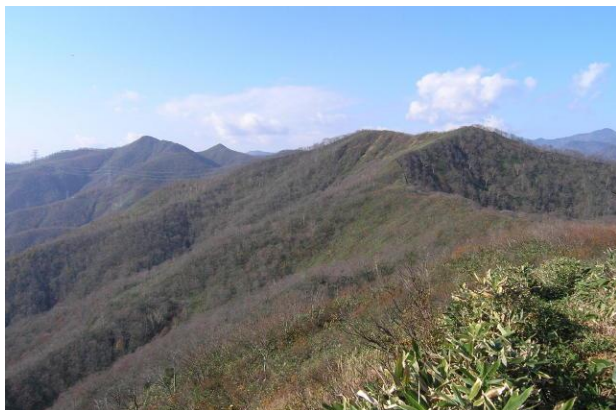


## 稲包山山行記録



目的地	稲包山 (三国峠～三国スキー場)	期 日	平成18年10月29日 (日)
山行人	笠原正雄・笠原澄子	特 記	上州・越後国境稜線を歩く。82歳の沼田さんに敬服。

地名	(着)～(発)	天候	記 事
与板発	午前5:15	晴	長岡IC～湯沢IC通勤割引。走行距離117km。
三国トンネルP	6:50～7:15	〃	他に駐車は無い。ストレッチ後歩き出す。枯葉を踏んでの遊歩道。
三国峠権現社	7:45	〃	ここに来てまともに朝日を受ける。道標を右折して山道へ。すぐに鉄塔下。
長倉山	8:10	〃	鉄塔下から朝露でぬれた笹道の緩登。進むにつれて傾斜が増し、笹も乾いてきた道を喘いで平坦地の道標に着く。行く手の展望も開き、ここから下りとなる。巨大な鉄塔下に長倉山下の道標があり巡視路と交差する。
H1447ピーク	8:40	〃	長倉山下からもう少し降ろされる。登り返して尾根道ピーク。目指す頂を望むことが出来、そこへ向かう尾根も目で追える(写真左)。振り返れば三国山の登路が全て見え、平標・仙ノ倉が美しい。
コース上で休む	8:45～8:50	〃	やや下って木の下で立ち休み。しばらくは喬木落葉樹帯を進む。
キワノ平の頭	9:10～9:15	〃	際立ったピークではない。苗場スキー場が見え始める。暫く山を眺める。
男2人隊と会う	9:35	〃	同年台。昨日赤沢スキー場から入山し、幕営、三国峠に降り法師温泉に歩いて下ると言う。本日の上山コースでは唯一の出会いであった。
コベックラ沢分岐	9:40	〃	巡視路との分岐点。三国スキー場のゲレンデも見えてくる。意外に近く、下山は7.4kmの車道歩きを覚悟の上、そちらに降りることを決意する。山頂に人影が見える。右に小稲包の尖がり形が良い。送電線と離れて来て、巡視路から外れると笹刈払いが粗末になる。頂への最後の登りが始まる。
稲包山頂	10:35	〃	5分前に三坂峠分岐を経て到着。大半が高年女性の赤沢峠からの20人隊で狭い頂は満員。平標、万太郎方面を眺める位置に座る。谷川岳の頂は雲が掛かっている(写真右)。背後は白砂、佐武流そして苗場山。浅間が霞む。
下山開始	12:00	〃	20人隊が下山し静かになった。陽が陰り風を受けて寒くなり鼻水も出て来た。運よく三国スキー場に下山するという沼田市の沼田さん(後で名前を聞いた)と話が合い、帰り車に同乗をお願いして一緒に下山する。
西稲包山	12:30	〃	三坂峠分岐に戻り左折、下りとなる。小稲包へ登り返す。小柄な沼田さん、小さく歩を刻み、ザックのカウベルを鳴らして、アレヨアレヨという間に上って行く。ついて行くのにやっとだ。年齢を聞いてびっくり、妻が一言「負ケテルウー」。陽差しが出てきて暖かくなり一枚脱ぐ。
三坂峠	12:40		鞍部に道標。稲包山1:40/スキー場1:30とある。
ゲレンデを見る	12:50	〃	この辺りまで小さな登降を繰り返すがここからは下りのみになると聞く。
沢への下り	1:05	〃	落葉した白樺と唐松の林の快適な下りから沢への急降下。所々、板で土留めが施されている。根曲がり竹の刈り切りの道も混じる。
丸木橋	1:10	〃	湯ノ沢の渡渉。5～6歩の飛び石伝い。橋は流されている。この後遊歩道となり、右手に湯ノ沢の清流を垣間見ながら沢音を聞いて緩やかに下る。
三国スキー場	1:40	〃	ゲレンデに出る。沼田さんに乗せてもらい2時に車に戻る。下道で帰る。

昨秋同週に赤沢スキー場からこの山を登った。そのとき当初はこのコースを予定したが、風邪気味と越後側の悪天候とで、登路を変更した。宿題を果たせたと言える。予想通り尾根伝いで、天候にも恵まれ、展望はすこぶる良い。それにしても凄い人に会ったものだ。沼田さんが山登りを始めたのは15年前。昨年迄は相棒がいたのだが膝の痛みで脱落し、今年からは一人歩きをしていると言う。我々に素晴らしい目標が出来た。長く山を楽しみたいと思う。

